

きるものの、規則の工夫をしたり、簡単な作戦を選んだりするなど全体やチームに関わることに
ついて思考力、判断力が高められていないと考えられる。

「学びに向かう力、人間性等」に関しては体育の学習に進んで取り組む児童が多く、児童同
士で褒め合ったり、仲間と助け合ったりしながら活動に取り組んできた。しかし、勝敗にこだ
わりすぎるために、チームメイトの気持ちを考えることができなかつたり、適切ではない言動
をとってしまったりする児童もいた。楽しく授業に取り組めるようにするためにはどうすれば
良いかを話し合いながら学習を進めてきた。

(3) 体力の状況

	男子					女子（1名未実施）				
段階	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
人数	4人	7人	2人	-	-	9人	10人	4人	1人	1人
%	30.8	53.8	15.4	-	-	36.0	40.0	16.0	4.0	4.0

新体力テストにおいては、4年生全体の結果を見ると、ほとんどの項目が全国平均より高い
ことから体力や運動能力が高いと考えられる。総合評価の割合は男女総合でA・B段階が約7
9%、C段階が約16%、D・E段階が約5%という結果であった。3年生から体育の授業は
体育専科教員が担当となり、様々な学習に取り組んでいる。体育の授業の様子を見てみると、
ほとんどの児童が初めて学習する内容でもしっかりと理解し、できることを一生懸命に取り組
もうしている様子が伺える。しかし、D・E評価児童の中には「自分にはできない」と判断
し、諦めてしまう児童もいた。そこで、全員が楽しめる体育科学習を目標に技能指導や児童同
士の学び合いに重点を置き、技能習得の喜びや学び合う楽しさ等を体験できるようにした。

ネット型ゲームとかかわりのある「反復横跳び」は、全国平均と比べると、男女ともに結果
はよく、ネット型ゲームにおいてより高いレベルでの技能習得が期待できる。昼休みに外遊び
の推奨や体育館の開放、体育教材の貸し出しなどしてきたことから、今後も体力の向上が期待
できると考えている。

5 学習を進めるに当たって

本単元では、「思考力、判断力、表現力等」の育成に着目して授業を展開していきたい。

単元を構成するに当たっては、単元全体を通して「仲間と協力してボールを繋ぎ、ソフトバレー
ボールを楽しむ」ことを目標設定し、「ソフトバレーボールの基本的な技能を高めよう」と「ソフ
トバレーボールをみんなが楽しめるように工夫しよう」と、大きく2つの段階を設定した。

単元はじめのオリエンテーションでは、ソフトバレーボールの内容の説明とともに、実際のゲー
ム映像を見せることで、ソフトバレーボールとはどのような運動で、どのようなことができるよう
になればよいかをイメージできるようにしたい。また、本単元では1チームでのラリーゲームを中
心に授業を進めていくことで、児童の学習意欲と技能向上を高めた授業展開にしていきたい。

単元前半では、「ソフトバレーボールにつながる基本的な技能を高める」というねらいのもと、
「ボールをはじくこと」、「相手コートに返球すること」、「ボールの方向に体を向けたり、落下点や
操作しやすい位置に移動したりすること」などの技能習得に焦点をあて学習を進めるとともに、身
に付けた技能をゲームで生かせるように授業を進めていきたい。

単元後半では、「ソフトバレーボールをみんなが楽しめるように工夫しよう」というねらいのも
とに、身に付けた技能を使いながら、児童全員が楽しめるようにしていきたい。そこで、学習指導